

令和7年 市政ふれあい懇談会要旨

■開催日時 令和7年5月17日（土）10時～12時

■開催場所 我孫子南近隣センター

■参加者 市民17名

■出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、大井環境経済部長、海老原建設部長、中場都市部長、担当課長等21名

■懇談要旨

●白樺芸術祭について

市 民：白樺芸術祭について3点お伺いします。まず1点目は、白樺芸術祭の内容と今後のスケジュールについてです。2点目は、予算の内訳について。3点目は、150万円の負担金の運用方法についてです。現在、白樺文学館や杉村楚人冠記念館、旧村川別荘でボランティアガイドを務めている者として、非常に興味深いテーマですので、よろしくお願いいたします。

商業観光課長補佐：ご質問いただいた白樺芸術祭について、内容、期間、負担金についてお答えいたします。

まず、白樺芸術祭は市制施行55周年を記念して企画されました。我孫子市には古くから白樺派の文人が住んでいた歴史があり、それにスポットを当てたイベントとして立ち上がりました。内容としては、過去の白樺派の文人たち、現在の芸術、そして未来を見据えた芸術にスポットを当てる計画です。期間は11月から12月頃を予定しており、手賀沼公園を主会場に1日のイベントと一定期間のアートイベントを組み合わせた形式を考えています。

負担金の150万円については、全体の事業規模が700万円から800万円程度を予定しており、その中での市の負担となります。当初は50万円の要望でしたが、生涯学習部で計画していた本城直季さんの写真展と内容が調和することから、一括して負担金に組み込むことにしました。

より具体的な内容が決まりましたら、広報やホームページでお知らせいたします。ぜひ楽しみにしてください。

市 民：ありがとうございます。楽しみにしています。

●災害時の避難所・避難場所について

市 民: 学園通り町内会の防災担当をしております。避難所・避難場所について質問します。我々の地域は、避難所となる小学校がかなり遠いため、町内会では公園を避難場所として指定しています。そこで3点お伺いします。

1点目につきましては、災害時に実際にこれらの公園を避難場所として使用してよいのか。2点目は、避難者が長期滞在する可能性がある場合、対策本部のようなものを設置してよいのか。3点目については、車での避難者への対応はどうすべきか。また、近隣センターが福祉避難所に指定されていますが、その運営計画等について町内会との連携はどのようになっているのでしょうか。

市民安全課長: まず、災害時の避難についてですが、基本的には指定避難所・避難場所への避難をお願いしていますが、緊急時にはお近くの公園等への一時避難はやむを得ないと考えています。昨年の地域防災計画の修正で、在宅避難や地域の集会所等での避難も位置付けました。ただし、そういった場所で避難生活を続ける場合は、災害対策本部への連絡をお願いします。

福祉避難所については、直ぐに福祉避難所になるわけではなく、一般の避難所で生活が困難な方のために開設され、そこに移送されます。まずは一般の避難所に避難し、そこで対応が難しいと判断された方が移動する形になります。車での避難については、原則として避難所の駐車場は使用できませんが、状況に応じて判断します。

なお、長期的な避難生活や対策本部の設置については、状況に応じて判断していきます。安全確認や物資の配布など、市の職員が対応する部分もありますので、自治会や自主防災組織との連携を図りながら進めていきたいと思っています。

市 民: ありがとうございます。災害時の対応について理解できました。地域としても準備を進めていきたいと思っています。

市 長: ありがとうございます。基本的には、すぐに福祉避難所になるわけではありませので、公共施設に避難をしてもらって、そこから小さなお子様を抱えている方や高齢者、持病を抱えている方などが福祉避難所に移るという形で位置づけが

変わりますので、ご理解いただければと思います。大きな揺れがあった際は、まず公園などに避難していただきたいと思います。在宅避難については、水や電気は通っていないが、寝泊まりは出来るという方は、帰宅して連絡をいただければ、飲み水や食料などをお渡しにいくことになり、災害の大きさによって、避難の場所が変わってくるということになります。身の危険を感じましたら、公園の大きさなどは気にせず、避難していただきたいと思います。

災害時の対応は市と地域の連携が重要ですので、今後も情報共有や訓練を通じて、より良い防災体制を構築していきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

市 民：もう一点ですが、町内会で公園にテントを張るなど、事前に許可を申請しなくてもよいということで、よろしいですね。

市 長：緊急時には許可などの時間はありません。また、災害時は申請を受け付ける職員も現場に行ってしまうので、まずは、身の安全を保てるようにしてほしいと思います。それと、土砂災害、堤防の決壊など、災害の種類によっては、避難する場所が変わることを、ぜひ覚えておいてください。

●子育てしている現役世代の意見を積極的にくみ取ってほしい。

市 民：2年前に我孫子市に移住してきました。我孫子市は、落ち着いていて便利と言えば便利ですし、緑も豊かで住みやすいと思います。私としては待機児童が0人と言う事ですので、特に不満はありませんが、財政が厳しいと聞いていますので、ふるさと納税をもっと活用してはどうかと思います。お聞きしたいのは、現役世代で子育てをしている人の声がどれだけ届いているか聞きたくて、過去にふれあい懇談会でどんな話がされているかホームページを見てみましたが、PDFですので、拡大をしていかなければならないのと、長い文章を読まなければ、内容がわからないなど、読みづらい点がありました。伝えたい意見は、現役世代の意見を積極的にとりに行ってほしいと言う事と、そういった機会を作っていただければと思います。

その際には、協力いたしますので、よろしくお願いいたします。

企画総務部長：貴重なご意見ありがとうございます。また、ご参加ありがとうございます。

ます。2年前に移住されてきたということで、我孫子市を選んでいただき、ありがとうございました。只今のご意見を聞いて、私共も、もっと努力をしていかなければと思いました。若い世代の声が届いているのかという点と議事録についてご意見を頂きましたが、まず、議事録につきましては、実際の状況を伝えると言う事で、公開をしていますけれども、見やすさについては工夫をするなど検討いたします。

若い世代の意見を待ちの姿勢ではなくて、積極的に聞きに行くということにつきまして、市では、計画づくりを行う際にはパブリックコメントを実施しておりますが、積極性に欠けている部分があると思っております。現在、市ではデジタル技術を駆使してクアルトリクスというソフトで、市民の皆様に向けて各課からアンケート調査などを実施しております。こういったデジタルアンケートを行っていることを広くPRし、若い方々の意見を取り入れられる積極的な方法を検討してまいります。

市長：我孫子は、昔から住宅都市として発展してきましたので、市の収入のほとんどが個人市民税となっています。高齢化が進んで、この東葛地区では、野田、我孫子が31%で3割を超える人が65歳以上となっています。以前、高収入であった人が、年金生活となりましたので、市税が落ち込んで来ております。高齢者が増えることで、社会保障費も上がりますので、市の支出の半分近くがそういった支出になります。それと我孫子には大企業がありません。また、企業の本社は大体が東京都にあり、本社が法人税を支払うことから東京都に入ってしまった、市に入ってくるのは固定資産税ぐらいになってしまいます。こういったことから、財政が厳しい状況となっています。そういった中で、やりくりをして優先順位をつけて事業を行っていくということになっています。その中で、高齢者への配分を少し減らして、若い人たちへの事業配分を増やしました。ただばらまくのではなく、万が一の際でも心配しなくていいようにすることと、高齢者には介護保険制度をしっかりと活用できるようにしています。こういった財政状況から、「あったらいいな」ということは出来ないということです。ただ、やはり税収を増やす方法は、探していかなければならないと考えています。このふれあい懇談会は、事業内容が多岐にわたっているので、若い方は参加していないようです。ただ、学童や保育園、幼稚園などの話題であれば、若い方は多くいらっしゃいます。保育園も公立よりも私立の方が柔軟に対応してくれますし、幼稚園のニーズも減ってきている中で、空き部屋はあるわけ

ですから、こども園として認定を受けて、0歳から2歳までをその空き部屋で保育として受け入れて、そのまま幼稚園として稼働することができるようにしています。我孫子市では、本来幼稚園は学校ですから、教育委員会となりますが、そういったことから、子ども部を所管とし、幼稚園や保育園か、両方どちらからでも、こども園に切り替えやすいように窓口を一本化いたしました。いろんな形で、やりやすいようにしていきたいと思いますので、もう少し若い人たちの声を聞きたいと思っています。ご意見を頂ければ、お伺いしたいと思いますので、お声がけくださいますよう、よろしくお願いいたします。

ふるさと納税については、誤解のないようにしていただきたいのですが、我孫子市民がふるさと納税をすると、市の税収は減ってしまいます。例えば、1万円のふるさと納税をすると、3割が返礼品に、1割が手数料に使われ、実際に寄付として入るのは6割弱になってしまいます。昨年度の実績で言いますと、我孫子市へのふるさと納税は約5,000万円でしたが、我孫子市民が他の自治体にしたふるさと納税は5億円でした。つまり、4億円以上の差が生じています。この金額があれば、例えば小中学生の給食費を無償化できる規模の財源になります。

ふるさと納税制度は本来、自分のルーツがある地域や支援したい地域に寄付をする趣旨でしたが、現状は返礼品目当ての寄付が多く、制度の趣旨から外れているように感じます。

我孫子市としては、市民の皆様には可能な限り通常の納税をしていただき、他の自治体へのふるさと納税は控えていただくのが一番ありがたいです。ただし、本当に支援したい自治体がある場合は別です。ふるさと納税を活用した施策については、寄付者の意向を尊重しつつ、市の重要課題に対応するよう努めています。しかし、先ほど申し上げたように、現状ではふるさと納税による減収の方が大きいのが実情です。市の財政状況改善のためには、税収を増やす努力と同時に、効率的な行政運営が必要です。市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- 「就労準備支援事業」、「家計改善支援事業」、「中学校部活動の地域展開」について
市 民：資料1ページの生活福祉に関する総合的な支援で、生活困窮者を対象に「就労準備支援事業」や「家計改善支援事業」について、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。もう一つは4ページの中学校部活動の地域展開について、モデル的に地域展開するとのことでしたが、現状と今後についてお聞きしたい。

特に我孫子の中学校は、吹奏楽、合唱など文化的な部活が活発でしたけれども、今後の展開をお聞きしたいと思います。

市長：一点目については、もう少し具体的になりましたら、ご説明したいと思います。本日はすみませんが、健康福祉部が来ておりませんので、詳しい説明は出来ません。お手元の資料にてお知らせとさせていただきます。2点目の部活動につきましては、来年度の本格稼働に向けて、今、これを取りまとめています。まずは、白山中の卓球部でスタートしていますが、東側の地区は、子ども達が軟式野球部ではなく、リトルシニアに行ってしまう、野球の部活動でチームが組めない状況が続いています。複数の学校でチームを作って軟式野球の練習をするのですが、集めるエリアが広く、練習に行く足の確保ですとか、指導者はどうするのかなど、いろんな課題があり、それを整理しています。文科系の方も文化連盟の皆様が協力すると言ってくれていますので、指導者を選定しながら、バランスをうまく取って、スポーツ協会や文化連盟の皆様にもご協力をいただく形をとろうと思っています。残念ながら、今一番の課題は、先ほどご指摘のあった吹奏楽部の楽器の移動は、誰がどこで行うのかという話になりますので、そうすると学校を使用するしかないという話になっています。それでは、これまでと変わらないという話もあり、今課題の整理として教育委員会が悩んでいるところだにご理解ください。

●外国人居住者の増加に伴う課題について

市民：外国人居住者の増加に伴う課題について質問があります。私の近所でも、外国人がシェアハウスのような形で住んでいますが、ごみ出しのルールが守られていないなどの問題が起きています。市としてどのような対策を考えていますか？
また、今後の国際交流についての青写真をお聞かせください。

企画総務部長：貴重なご意見ありがとうございます。企画総務部で国際交流協会という外郭団体との事業を所管しておりますので、お答えさせていただきます。外国人居住者の増加に伴う課題は認識しており、市としても対策を進めています。

まず、転入時に生活マナーやルールについての冊子を配布しています。最近では、外国人向けの生活マナー・ルールマニュアルを作成し、市民課窓口で配布を始めま

した。また、QRコードを活用し、多言語での情報提供も実施しています。

また、市内の日本語学校とも連携し、学生へのマナー指導をお願いしていただき、今後は、市職員が学校に出向いて直接指導することも検討中です。

やはり、学校側でも意識が出てきているようで、学校でゴミ拾いやいろんな地域貢献のボランティアができないかなど、市に問い合わせもいただいております。

国際交流については、国際交流協会と連携して様々な取り組みを行っています。例えば、外国人向けの日本語教室や多文化交流のイベントなどを開催しています。今後も、増加する外国人居住者に対応するため、市の支援や関わり方について引き続き検討していきます。

生活衛生課長補佐:ごみ出しについては、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ベトナム語でゴミ分別のパンフレットを作成し、市民課等で配布しており、我孫子ではこういうルールになっていますという話をさせていただいています。もし、近くにお住いの外国人がうまく分別出来ていないなどの問題がありましたら、生活衛生課に直接お電話していただきたいと思います。職員が伺い、ゴミ出しが出来ている、出来ていないなどで誤解が生じないように、慎重かつ丁寧に日本のルールをご説明させていただきますので、情報提供いただければと思います。

市 長: 先ほど部長が言ったように日本語学校を通して、今協力をお願いしているところです。日本語学校や大学では、留学生や技能実習生に日本での生活やゴミ出しのルールを守らないと日本での生活がしづらくなるという形で指導してもらっています。また、国際交流協会を通じて様々な取り組みを行っていますが、外国人居住者の急増に伴い、対応にも課題が出てきています。今後は市としても、より積極的に関与していく必要があると考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

市 民: ありがとうございます。外国人との共生は避けられない課題だと思います。市の取り組みに期待しています。

●我孫子市上空を飛行する機体について

市 民: 自衛隊機の飛行について質問があります。最近、輸送機や戦闘機、練習機など

の飛行が増えているように感じます。安全面での懸念もありますが、我孫子市上空の飛行状況について、把握している情報があればお聞かせください。

市 長: ご質問ありがとうございます。我孫子市上空の飛行機についてですが、民間機については、成田空港や羽田空港の航路となっており、季節や風向きによっては我孫子上空を通過することがあります。自衛隊機については、下総航空基地（千葉県柏市）が海上自衛隊のパイロット教育訓練施設となっています。そのため、練習飛行が行われることがあります。基本的に、自衛隊機は手賀沼の東側から来て南下していくルートを取ることが多いですが、風向きなどの条件により、我孫子市上空を通過することもあります。また、災害時には、下総基地や立川の陸上自衛隊施設から物資輸送などのため、頻繁に飛行機が飛ぶことがあります。

安全面については、自衛隊も民間機も厳格な安全基準に従って運航しています。事故の可能性は極めて低いですが、市としても常に情報収集に努めています。

今後、飛行経路や頻度に大きな変更があった場合は、関係機関に確認し、必要に応じて情報提供を行っていきたいと思います。全ての飛行機が、我孫子の上空を飛んでいるわけではないということを、ご理解ください。

市 民: ありがとうございます。状況がよく分かりました。

●消防団、防災倉庫及び国道 6 号線下の通路について

市 民: つくし野南自治会の者です。3 点ほど提案があります。1 点目は消防団について、2 点目は防災倉庫について、3 点目は国道 6 号線下の隧道についてです。

まず、隧道の安全対策についてですが、隧道はタイル張りですので、滑りやすく転倒事故が起きています。以前も市に改善相談をしましたが、予算の問題で対応が難しいと言われました。今朝も転倒された方がいましたので、再度対策をお願いしたいです。

次に、国道 6 号線の横断歩道について、交通量が多くて、自転車の横断が危険です。ガードレールの設置などの対策を検討いただけないでしょうか。

次は、防災倉庫についてですが、各小学校等に防災倉庫がありますが、市の担当者は、鍵の開け閉めは市職員が行いますと言うのですが、鍵の管理を自治会にも任せていただけないでしょうか。緊急時に市の職員が来られない可能性もあるため、

自治会長などにも開錠の権限を与えていただきたいと思います。

最後に、消防団についてです。自治会の防災訓練の際に消防団活動のPRを行ったのですが、自治会の中から活動協力金を出すことについて、消防団長さんから電話を頂きたいと伝えたのですが、なかなか電話がなくて、聞いてみると消防署から電話をしないようにと言われたそうです。理由を聞きましたら、協力金の催促に繋がる可能性があるという指導をされたとのことでした。また、自治会長や副会長の電話番号は知らないと言っていました。出来れば、消防署の方から今年の役員を教えていただければと思いますし、消防団の存在すら知らない、中には準公務員に協力金を出すのは違法ではないか、という方もいらっしゃいます。消防団の活動をより理解し、支援するためにも、自治会との情報共有や交流の機会を増やしていただきたいと思います。

市 長: ありがとうございます。地域の安全と防災は市政の重要課題です。自治会の皆様との連携は不可欠ですので、今後もお意見やご提案をいただきながら、より良い体制づくりを進めていきたいと思えます。

特に消防団については、団員の確保が課題となっています。現在 21 ある分団を 16 程度に再編し、より効率的な体制を目指しています。同時に、消防職員の増員も行い、消防力の維持・向上に努めています。

防災倉庫の鍵管理については、緊急時の対応をより迅速にするため、自治会や自主防災組織との連携方法を検討していきます。ただし、安全確認など市職員が行うべき業務もありますので、役割分担を明確にしながら進めていきたいと思えます。

道路の安全対策については、国や県との協議が必要な箇所もありますが、市民の皆様の安全を第一に考え、できる限りの対策を講じていきます。

今後も地域の皆様と密接に連携しながら、安全・安心なまちづくりを進めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

道路課主幹: 二つの隧道について、お答えします。まず、我孫子駅からつくし野地区に抜ける国道 6 号下の隧道ですが、構造自体は、国土交通省の管理となっております。表面上を市が管理しています。この隧道については、台風や雨が降ると滑りやすいというところがあり、滑り止め等を設置していますが、多分、転ばれた所は滑り止めなどの対策がなかったのかなと思っています。安全対策については、現地を

確認し、市として出来ることを国土交通省とも協議しながら対策を検討いたします。

もう一つは夢庵付近の隧道についてですが、こちらは構造物、表面共に国土交通省の管理となっています。そのため、注意喚起やガードレールの設置等、国へ安全対策についてご要望があったことをお伝えいたします。

市民生活部長：防災倉庫の鍵の件につきましては、基本的には先ほどのご質問にもありました通り職員がすぐ駆けつけてそちらの倉庫の鍵を開けるという体制をとっております。避難所となる体育館が危険だった場合には、職員が目視などで確認が必要というところをご理解いただけたと思います。倉庫も非常に体育館に近い場所に設置してあるところもありますし、その建物自体が危険かどうかというのは、やはり市民の方が先に行った場合、また余震などが続く状況もありますので、さらに災害が災害を呼ぶという可能性もありますから、そこは、基本的には倉庫の鍵を開けるのは職員が行っていき、また避難所のところの安全確認も職員が行っていくということを基本には考えております。ただし、実際に災害がおきた場合については、職員だけでは手が足りないということも可能性としてはあります。

そのため、今後自主防災組織の方に鍵を開けてもらう可能性はあるとは思いますが、このあたりはよく検討させていただこうと思います。

市長：確かにその鍵については、職員が全員いけるのかという時に幅広いエリアで災害が起きるとその対応は難しくなります。台風が来るという時は、いつも災害対策本部を開きながら、まずは水害に弱い地域を市の方で把握していますから、そこを中心に配置をしたりですとか、あるいは東日本大震災の時は、被災がほとんど8割がた布佐でしたが、これが、湖北、天王台にも同じように液状化した地域があったという状況になってくると、実際に全員職員がいけるのかという話があり、大きくマニュアルの見直しをさせていただいたりしました。その中で、やっぱりある程度信頼関係ですから、自治会あるいは自主防災会があるところには自主防災会で少し役割分担をさせてもらってもいいのではないかと思います。あと、国道6号の隧道についても、国とも話し合いをしなくてはいけないのですけれども、自転車で横断している人にはガードパイプ作ってもらうしかないのですけれども、それを作るのは国の仕事になりますので、あとはケガの防止については、国と協議をしていくことになります。国道6

号は、国の直轄国道ですし、国道 356 号は、国道という名前はついていますが、県の管轄ですから、市と三者で役割分担しているところがあります。勝手には出来ませんので、少し協議のお時間をください。

市 民: ありがとうございます。各課題について検討いただけるとのことで安心しました。地域の安全のため、今後もよろしくお願いいたします。

●シティプロモーションについて（動画配信・イベント）

市 民: シティプロモーションについて 2 点質問があります。1 点目は、我孫子市の文化や自然の資源を PR する動画配信の強化についてです。特にショート動画の活用はいかがでしょうか。2 点目は、市外の方も含めたイベント参加を促進するための工夫についてです。例えば、鳥の博物館フェスティバルなどのイベントをより魅力的にするためのアイデアはありますか？

企画総務部長: 貴重なご意見ありがとうございます。動画配信については、以前はふるさと大使の塙さんに協力いただいていましたが、報道にもありましたとおり、再生回数が伸び悩んでいたことなどの理由により、一旦休止をしております。しかし、動画コンテンツの重要性は認識しており、限られた予算の中で、今後も効果的な方法を検討しています。

現在は、移住・定住促進に重点を置いた広告展開を行っていますが、市の魅力を広く発信することも重要だと考えています。ご提案いただいたショート動画の活用も含め、効果的なプロモーションの方法も検討していきます。

イベントについては、手賀沼フィルムコミッションの活動により、テレビや映画のロケ地として我孫子市が使われる機会が増えています。これらのメディア露出を通じて、若い世代にも我孫子市の魅力が伝わればと思います。

ジャパンバードフェスティバルについては、単に鳥を見るだけでなく、鳥が生息できる水辺環境が人間にとっても良い環境であることを伝えるイベントです。手賀沼の水質改善の歴史や現在の取り組みも含めて、より多くの人に興味を持ってもらえるよう工夫していきたいと思っています。具体的なアイデアがありましたら、ぜひご提案ください。市民の皆様と一緒に、我孫子市の魅力を発信していきたいと考えています。

市 民: ありがとうございます。動画コンテンツの活用に期待しています。イベントについても、より多くの人が参加したくなるような工夫をお願いします。

市 長: ご意見ありがとうございます。塙さんの YouTube チャンネルを活用した情報発信も検討しています。また、手賀沼フィルムコミッションの活動を通じて、テレビや映画での露出も増えています。これらを通じて、若い世代にも我孫子市の魅力が伝わればと思います。

イベントについては、歴史的な背景や現在の取り組みを含めて、より多くの人に興味を持ってもらえるよう工夫していきます。皆様からのアイデアも歓迎しますので、ぜひご提案ください。